

1 単元名 「萩市の食を見つめよう ～萩市の食を広め隊～」

2 単元の目標

- ・ 萩市の食（郷土料理や特産物）を知り、なぜ郷土料理や特産物が萩市の様々な地域でつくられているのかを、多角的に調べることができる。 （知識及び技能）
- ・ 萩市の食文化について、友達や地域の人々等との関わりを通して、多面的に理解することができ、萩市民としての誇りをもつことができる。 （思考・判断・表現）
- ・ 調べたり体験したりしたことを、相手意識をもってまとめ、伝えることができる。 （主体的に学習に取り組む姿）

3 評価規準

ア 知識・理解	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
○萩の特産物について調べることができる。	○萩の自然豊かな土地で、美味しい食材がどうして収穫できるのかについて、考えることができる。	○調べたことを、家族や地域の人に伝えるために、自分なりの工夫をしようとすることができる。

4 単元について

（教材観）

萩市の西部に位置する山田地区は、校区内で農業を中心とした地域、漁業を中心とした地域があり、児童は、米づくり（山）や、釣り（海）に加えて、学校の前にある川に生息しているホタルの飼育（川）にも取り組んでいる。また、萩市は、平成30年9月20日に「日本ジオパーク」に認定され、本校においてもジオパークに関連する学習を年間計画等に位置づけて取り組んでいる。

自然豊かな地域で、美味しい食べ物に恵まれている私たちであるが、「なぜ、萩の野菜や魚は美味しいのだろうか」という疑問が生まれたことにより、萩の食文化を見つめることにつながった。

この単元は、コミュニティ・スクールであるということ、ふるさと萩が「萩ジオパーク」であるという観点から、5年生なりの考えをもち、調べたり、誇りに思ったり、体験したり、伝えたりという活動が、「萩市の食」を柱にすることで、児童が意欲的に取り組むことができると考える。この単元は、地域の人材の活用、ふるさとを愛する心を育むことにも適した学習であると考えます。

（児童観）

本学級の児童は、総合的な学習の時間に、萩の伝統、文化、歴史や、特産物、そして、高齢者との交流など、地域を意識し地域と関わりをもつ学習に積極的に取り組んできた。男子のみのクラスであるが、食については関心が高く、校区で獲れた魚食を使った料理教室等にも保護者や地域の方々と一緒に参加することもあった。本校の学校運営協議会の副会長が、元「学校栄養教諭」、現「萩市の食を考える会」の会長であることから、総合的な学習の時間や社会科、そして、家庭科等を教科横断的につないだ学習に積極的に関わってくださっている。萩市の食、自分の食について学ぶためには、「そ

の先生に教えてもらいたい。」という思いを児童がもっていることもあり、地域の人的、物的資源の効果的な活用として、児童の学習にゲストティーチャーとして常に関わってもらっている。関わってもらえることで、児童は、学習内容との向き合い方もずいぶん良くなり「萩市の食の美味しいひみつ」を多面的に調べていきたいと考えている。

(指導観)

児童が、白水小校区をふるさとだと大切に思うと同時に、「ふるさと萩」についての見方も意識させ、「ふるさと萩」を誇りに思えるようにさせたい。そのために、萩の大地の成り立ちを学ぶことで、校区だけでなく萩市全体のつながりを意識させることができると考え、阿武火山群の特徴である溶岩平頂丘がわかりやすい萩六島が見える場所に行き、火山活動について学習する機会をつくりたい。また、火山活動によってできた萩市の水はけのよい大地でできた野菜、海の中の火山活動によってできた小さな火山が「瀬」をつくり、それが潮流を乱すことで好漁場となりそこでとれた魚等について、ジオパーク推進室の専門員を講師から話を聴かせたい。萩市についての学びを深めた後、白水小校区に視点を戻し、白水小校区の農業や漁業の実態を調べさせ、白水小校区の自然の豊かさから、学校の前を流れる白水川のきれいさにまつわる白水小学校のカリキュラムともリンクさせた虫ときれいな水の学びにもつながっていることを確認させたい。

「ふるさと萩」という視点から、萩市のでき方や歴史について知ることで、「萩の食や食文化」と自分の生活をつなぎ、ふるさとの魅力に気づき、様々な要素が互いに絡み合い作用し合って、大切に継続していくことが重要であることを、自分の学びとして発信できるようにさせたい。

5 ESDについて

(ESDで育てたい価値観)

地域の豊かな自然は、今の世代の物ではなく、次の世代に残すべき「未来の遺産」である。萩市の豊かな自然は、これまでに、大切に受け継がれてきたものであり、地域の人々で守ってきた。その自然の中で、生きるために地域に根ざした食文化が生まれてきたとも言える。このことを学習することで、世代内の公正と世代間の公正について考えさせることができると考える。また、そのよさは、人の営みと大地や海とそこに生きる様々な生き物がつながっていることが必要であり、このことを学習することは、生物多様性などの自然環境の保全を尊重する価値観を育てることにつながる。

(SDGsへの貢献)

この単元は、「14 海の豊かさを守ろう」、「15 陸の豊かさも守ろう」の2つを目標とし、それぞれ、「14.7: 2030年までに、漁業、水産業養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便宜を増大させる」と、「15.4: 2030年までの持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に進行」をターゲットとする。萩市や白水小校区の自然と向き合うこと、5年生なりに食文化について調べ、体験し、そのよさについて広げていくこと、5年生での学びが他の学年でのふるさと学習とつながり、互いに絡み合い作用し合いながら、ふるさと萩を大切にしていけるように学習を進めたい。

6 指導計画（全22時間）

主な学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考	E S D の視点	資質能力
<p><u>萩市の食について知ろう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 萩市の郷土料理や特産物を調べ、萩市のどのような場所で作られているのか等の課題意識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「萩丸ごとたべちゃろうデー」の資料をもとに、その食材がさまざまな地域で作られていることに気付くことができるようにする。 調べた食材を絵カードに表すことで、食文化に学習につなげる。 	<p>◇萩市の郷土料理や特産物と給食の「萩丸ごとたべちゃろうデー」のメニューには、どのような食材が使われているのかについて、調べることができる。</p>	<p>多様性</p>	<p>クリティカルシンキング</p> <p>システムズシンキング</p>
<p><u>萩市の食文化について調べよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 作られている場所の共通点や、相違点を比較し、学習の見通しをもつ。 笠山見学の校外学習を通して、豊かな自然の上にさまざまな食物ができていくことに気付く。 白水小校区の農業や漁業も、萩市の大地のめぐみに関係していることを確認させる。 作られている野菜等を使った郷土料理を調べ、郷土料理のよさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ジオパークとの関連に触れ、ゲストティーチャーとして、大地の成り立ちや食のつながりについてジオパーク推進課の専門員に話をし、時間を過ごす。 大地と農産物のつながりを学習した後に、「萩市の食を考える会」の会長さんと連携し、萩市の食材を活用した郷土料理について関心を持ち調べることができるようにさせる。 萩市全体を見るだけでなく、白水小校区のジオパーク、大地のめぐみについて確認すること、白水川のきれいな水が蛍を育むことにもつながること、他の学年での学びと関連しながら、他の学年の学びの内容が、互いに作用し合っていることに気づかせる。 千石台の大根を使った、けんちょうやあじを使ったすりながし汁をつくり、食材とその料理の美味しさを感じ 	<p>◇萩の土地がどのようにしてできたのかについて、理解することができる。</p> <p>◇白水小の周りの山や川や海の様子に関心をもつこと、川のきれいな水がどのように流れているのかについて理解することができる。</p>	<p>有限性・循環性</p> <p>有限性・循環性</p>	<p>システムズシンキング</p> <p>長期的思考力</p>

	させる。			
<p>調べたことをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「萩市の食を広め隊」として、どのように知らせるか考える。 ・知らせ方に会うようなまとめ方を考え、実際にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわく参観日のステージ発表で、調べたことを家族や地域に人に伝えることを意識して取り組むことで、意欲化を図るようにする。 ・誰にどのように伝えるのについて、明確にしてからまとめさせる。 	<p>◇萩市の食を広め隊として、何を、誰に、何のために、どのように伝えるのかを明確にして、自分の考えをまとめる。</p>	<p>公平性 責任性</p>	<p>長期的思考力</p> <p>多面的、総合的に考える力</p>
<p>調べたことを広めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわく参観日に向けて、発表の練習をする。 ・パンフレットをつくり、配付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを、図やグラフなどに整理し、資料化した物を、わくわく参観日で配付する。 ・わくわく参観日当日のPTAバザーにおいて、児童が昨年作った「みそ」を使った「豚汁」を販売してもらい、保護者や地域と連携した取り組みになるようにする。 	<p>◇ふるさと萩、白水小校区について学んだことを、全校児童、保護者や地域の方々に、ステージ発表やパンフレットでつたえることができる。</p>	<p>公平性</p>	<p>協働的問題解決力</p> <p>コミュニケーション能力</p>